

名 称 所 在	用 途 (令別表)	発 生 日 時 等	構 造 ・ 階 層 面 積	焼 損 程 度 (焼 損 面 積) 延 面 積	死 傷 者
ホテルいのう 北海道岩内郡 岩内町大字島野 字雷電695	旅館 (5)イ	昭和44年4月21日	防火%	㊦・半・部・小	死者 0名
		出火15時36分ころ 覚知15時44分 覚知別 報知電話 鎮火19時00分	建 904m ² 延 1,524m ²	1,524m ² (100%)	傷者 21名 ()

I 火災概要							
① 概 要	温泉旅館の1階で従業員の火気取扱不良から出火し、初期消火に失敗して火勢を拡大させ、さらに通報・避難誘導等何らなされなかったため急激な火煙の拡大とともに2階の宿泊客が逃げ遅れたため窓から飛び降り大部分の客が負傷することとなった。						
② 階 別 状 況	階	床面積 m ²	焼損床面積 m ²	用途(売場)	在館者	死 者	避難設備等 消防用設備等
							屋内階段 4箇所 屋外階段 2箇所 避難はしご 2
	2	620	620	客室他	(客)23		⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭
	①	904	904	大広間 客室・調理室	(従)11		
	合計	1,524	1,524		34	0	
③ 出 火 場 所	(階, 室, 部位, 可燃物状況, 居室・非居室, 在・不在) 1階大広間前の廊下から出火 ○廊下の内装は合板で造られていた。 ○支配人と女中1人が大広間の暖をとるため廊下でストーブに点火していた。				④ 出 火 原 因	LPボンベの取り替えをしたため、調整器付近の不完全取り付け箇所からガス漏れを生じ、ストーブに点火した際、漏れたガスに引火したものと推定される。	

⑤ 火 災 の 延 焼 経 路 等	<p>(出火部位) (出火室の拡大) (他室への拡大) (上階への拡大)</p> <p>1階大広間前 の廊下 周囲の内装材に着 火し拡大する 煙道の状態と なった廊下を 延焼拡大する 階段から2階 へ延焼する</p>			
	<p>1階廊下のLPボンベ部分からの火災は出火場所付近の内装材が合板であったため着火が早く、しかも廊下のため煙道となり急速に延焼拡大し、さらに近くにあった開放階段から2階へ延焼した。</p>			
<p>○ 延焼拡大した主な理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 出火者本人が狼狽し、初期消火に失敗して火勢を拡大させ、さらに通報も遅れてしまったため延焼拡大したものである。 ○ 本館と別館とを区画する防火シャッターが開放されていたため延焼拡大した。 <p>○ 煙の伝播経路</p> <p>1階廊下からの出火に伴い発生した煙は、付近の内装材が合板のため、多量の濃煙が発生し、煙道状態となった廊下からすぐ横の階段より2階に伝播するとともに、1階に充満していき各階段より2階に上昇した。</p>				
<h2>II 火災建物概要</h2>				
① 建 築	<p>着工・竣工又は主たる改築等 (増築) 昭和41年5月 (新築) 昭和39年8月 日 (") 昭和42年3月 (") 昭和43年5月 日</p>			
管 理 状 況	② 縦 穴 の 状 況		③ 防 火 管 理 状 況	
	<p>階 段 <input checked="" type="checkbox"/> ダクトスペース <input type="checkbox"/> エレベーター <input type="checkbox"/> パイプシャフト <input type="checkbox"/> エスカレーター <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/></p> <p>階段区画なし</p>		<p>○ 防火管理者は選任されており、消防計画も提出されている。</p> <p>○ 自衛消防隊は温泉街の全旅館の防火管理者を主体とした人々で結成され、数回にわたり訓練が行われていた。</p>	
管 理 状 況	④ 防 火 区 画 等		⑤ 消 防 用 設 備 等	
	<p>西側の本館と東側の別館とを結ぶ廊下に防火シャッターが設けられていたが常時開放されていた。</p>		<p>○ 屋内消火栓及び自動火災報知設備の非常電源が未設置であった。</p> <p>○ 出火当時は送電線修理のため停電中であり、自動火災報知設備は作動不能であった。</p> <p>○ 他はおおむね適正に管理されていた。</p>	

III 火災後の行動		
① 発見状況	○発見者 (支配人(行為者)) ○発見の動機 (爆発的に燃焼する。) ○発見後の行動 (消火しようとする。)	
	支配人(失火者)は、15時35分頃1階大広間の暖をとるために広間前の廊下に置いてあったLPストーブの調整を見ようと連結してある10kgボンベの元栓を開き、ストーブに点火したところ点火と同時にLPボンベの調整器付近で爆発的に燃焼し、周囲の壁などに着火したため付近にあったゴザで消そうとしたが失敗した。そのあと火事だと叫んだが他の従業員には届かなかったようである。	
② 通報状況	通報した <input type="checkbox"/> () 発見後約 (8) 分 しない <input checked="" type="checkbox"/> (通行人が通報)	
	1階大広間・厨房・客室などにいた従業員等は火事を知りすぐに外へ飛び出したため通報はしなかったが、通行人に火災の通報の依頼したところ、通行人は約150m離れている急こう配の坂道を走りA旅館から通報した(15時44分)	
③ 初期消火状況	消火した <input checked="" type="checkbox"/>	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input checked="" type="checkbox"/> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input checked="" type="checkbox"/>
	消火しない <input type="checkbox"/>	○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
(理由又は状況) 失火者の支配人が狼狽し、消火器が近くにあるにもかかわらず使用せず、付近にあったゴザでたたき消そうとしたため、かえって火勢を拡大させてしまった。		
④ 消火活動概要	(消防上の支障・困難性等) 消防隊到着時には、強風にあおられた火炎は空高く舞い上がり出火点付近はすでに焼け落ち本館側は火の海と化しており東側の別館の延焼防止を試みたが立地条件が悪く手の施しようがない状況であった。	

	避難方法	避難上支障事項														
⑤ 避難 状況	○階段を利用 <input type="checkbox"/> (人) ○エレベーター, エスカレータ利用 <input type="checkbox"/> (人) ○避難器具を利用 <input type="checkbox"/> (人) ○窓, 開口部から直接地上へ <input checked="" type="checkbox"/> (人) ○救助 <input type="checkbox"/> (人) ○その他() <input type="checkbox"/> (人)	○無窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input checked="" type="checkbox"/> (管理不良, (機能不良), 未設置) ○停電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input checked="" type="checkbox"/>														
⑥ 死者 の 状況	<table border="0"> <tr> <td>健康人</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>(泥酔者)</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>要保護者</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>乳幼児</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>高齢者</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>身体不自由者</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>病人</td> <td>名</td> </tr> </table> <p>なし</p>	健康人	名	(泥酔者)	名	要保護者	名	乳幼児	名	高齢者	名	身体不自由者	名	病人	名	避難上支障となった事項 ○無窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
健康人	名															
(泥酔者)	名															
要保護者	名															
乳幼児	名															
高齢者	名															
身体不自由者	名															
病人	名															
IV 問題点・教訓等																
1. 失火者である支配人自身が出火に狼狽して消火に失敗し, 通報及び避難誘導がなされなかったため, 2階宿泊客が全員逃げ遅れてしまった。 2. 出火時は送電線の故障により停電中で, 自動火災報知設備が作動不能であったため火災の認知が遅れた。 3. 大規模木造(防火造)建物であり延焼拡大が早かった。																

